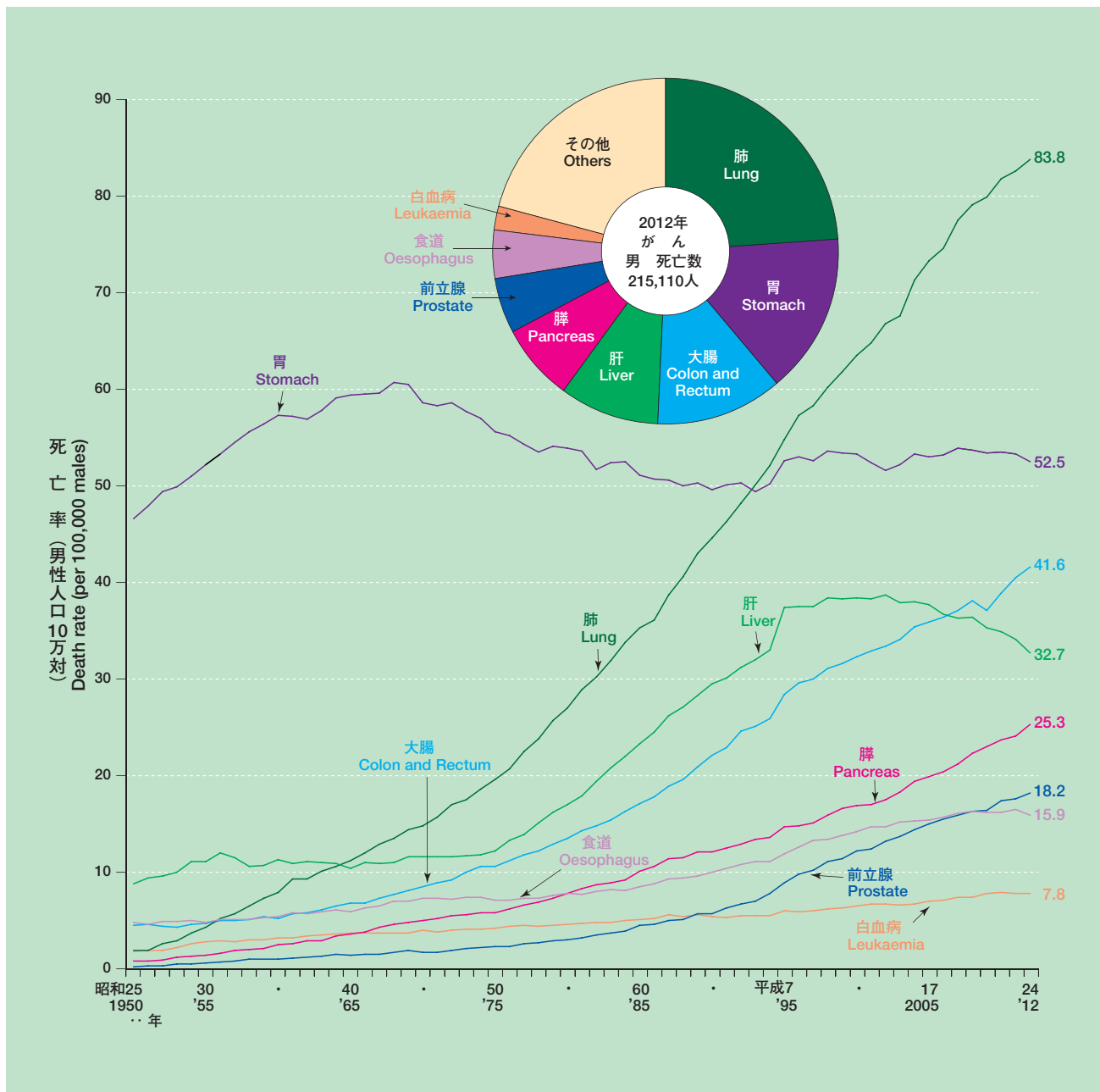


男は肺がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，男—昭和25～平成24年—
Trends in death rates for cancers by site, Male, 1950—2012



注：1) 大腸←結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸（昭和40年まで直腸肛門部を含む。） Colon and Rectum←Colon and rectosigmoid junction and rectum
2) 肝←肝及び肝内胆管（昭和32年まで胆のう及び肝外胆管を含む。） Liver←Liver and intrahepatic bile ducts
3) 肺←気管、気管支及び肺 Lung←Trachea, bronchus and lung

平成24年の男のがんの死亡数は21万5110人、死亡率（男性人口10万対）は350.8である。

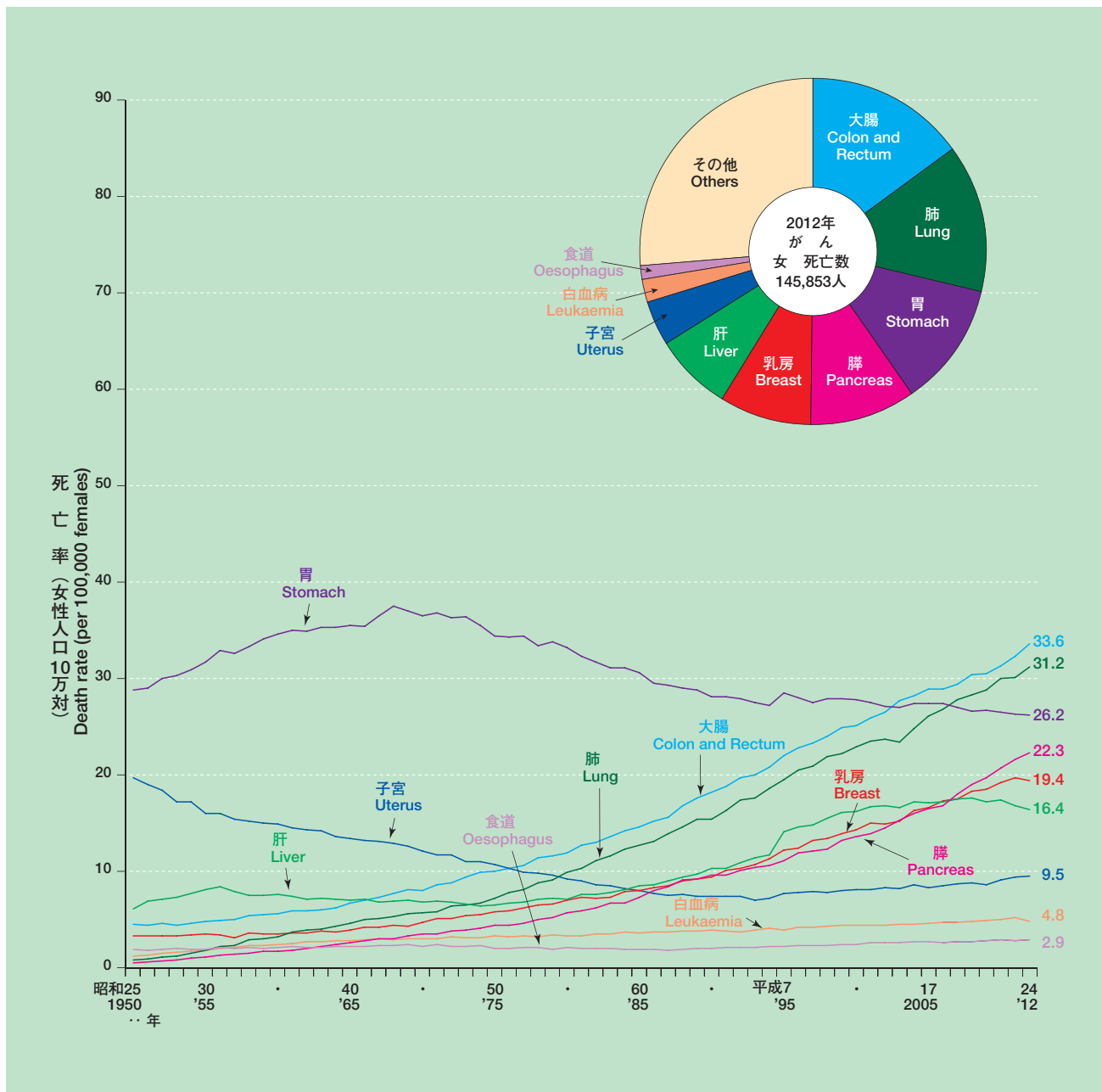
部位別に死亡率の年次推移をみると、肺がんは一貫して上昇を続けており、5年には胃がんを抜いて第1位となり、引き続き上昇している。

4年まで第1位であった胃がんは昭和43年をピークに低下傾向が続いていたが、平成6年から上昇傾向となり、近年は横ばいとなっている。

大腸がんは上昇を続け、19年に肝がんを抜き第3位となり、上昇傾向にある。その他の部位では、上昇傾向であった肝がんは、近年は横ばいから低下傾向で推移しているが、膵がん、前立腺がんは上昇傾向にある。

女は大腸がんが第1位

部位別にみたがんの死亡率の年次推移，女—昭和25～平成24年—
Trends in death rates for cancers by site, Female, 1950—2012



注：平成6年以前の「子宮」は胎盤を含む。

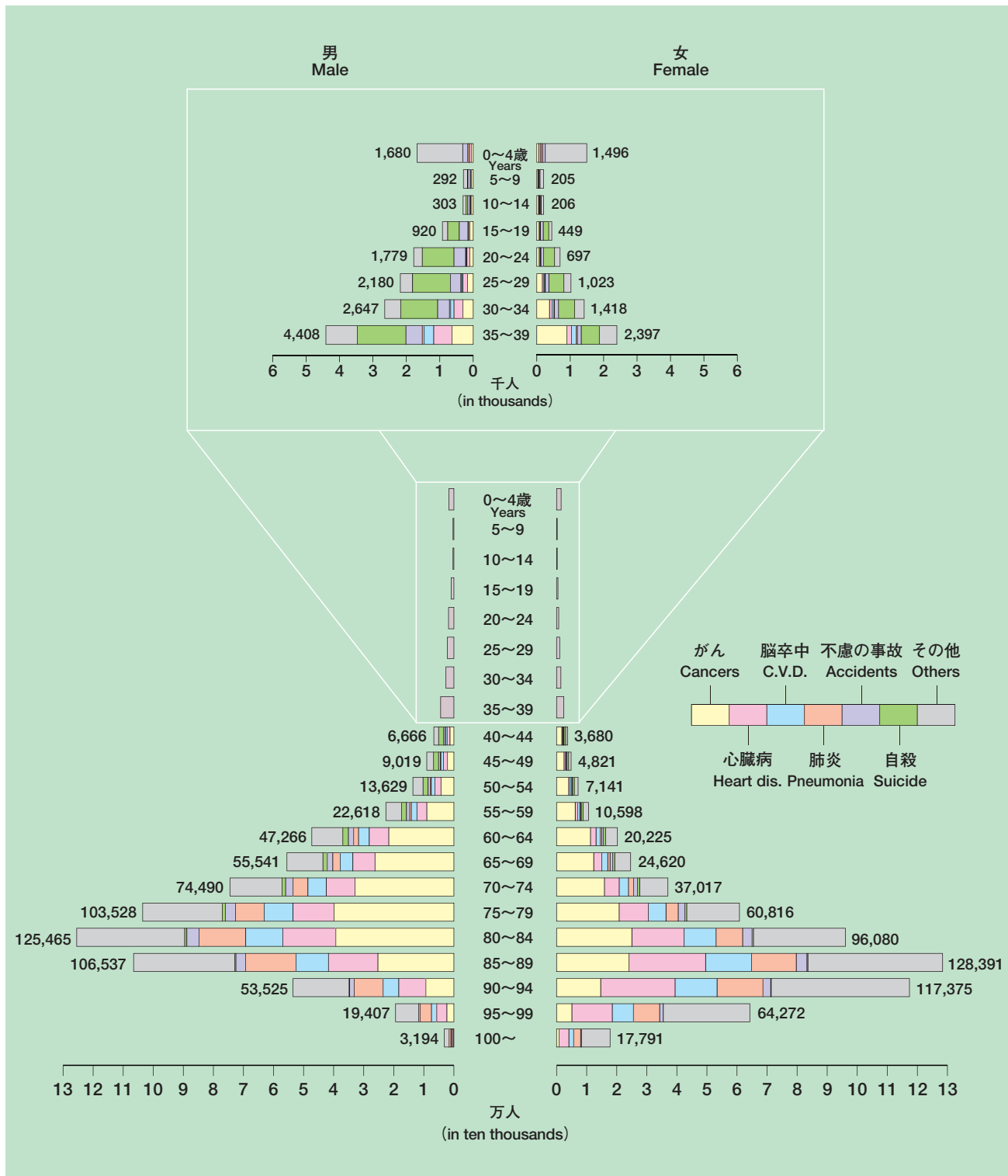
平成24年の女のがんの死亡数は14万5853人、死亡率（女性人口10万対）は225.7である。

部位別に死亡率の年次推移をみると、一貫して上昇を続けていた大腸がんは、平成15年に胃がんを抜き、以降第1位となった。19年には、同様に上昇を続けていた肺がんも胃がんを抜いた。

膵がん、乳がんは上昇傾向にあり、また、子宮がんも近年緩やかな上昇傾向にある。

青年層では不慮の事故と自殺が多く、中高年層ではがんが多い

性・年齢階級別にみた主な死因の死亡数—平成24年—
Deaths from leading causes by sex and age groups, 2012



注：C.V.D. ← Cerebrovascular diseases

平成24年の性・年齢階級別の死亡数を主な死因別にみると、男女とも10歳代、20歳代では、不慮の事故及び自殺が多くなっている。50歳代、60歳代、70歳代では、がんが多くなり、80歳代以降は心臓病、脳卒中、肺炎が多くなっている。